

国 語

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
文学国語	2単位	普通科（Ⅰ・Ⅱ型）	3年

教 科 書	高等学校 文学国語 (第一学習社)	副 教 材	新総合 図説国語 (東京書籍)
-------	----------------------	-------	-----------------

科目の目標	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	近代の小説Ⅰ 「枯野抄」 戦争と文学 「夏の花」 創作Ⅰ 詩の創作と鑑賞	多角的な視点から文章を 読解し、作品の多様な価値 を捉える力を磨く。
2 学 期	海外の文学 「変身」 近代の小説Ⅱ 「舞姫」 創作Ⅱ 物語の創作と鑑賞	作品や作者の背景をふま えて作品を鑑賞する力を磨 き、創造性を養う。
3 学 期	表現 朗読劇 「舞姫」	表現を通して作品を解釈 し、深く読解する力を養う。
備 考 (学習のポイント)	1 復習を必ず行うこと。板書を見ながら今日の授業を頭の中で再現すること。 2 国語の学習において、要約と説明は鍵である。文章の要点を説明し、また本文を要約して、学習内容の定着を図ること。 3 知らないことは考えられない。積極的に読書し、自分の知見を広げること。	

評 価 規 準	知識・技能	文学の価値に気づき、多様な表現の価値を理解した上で、生涯の社会生活に必要な国語の語彙や文法的な知識を身に付けている
	思考・判断・表現	多角的な視点から考え、他者との関わりの中で自分の感性を磨き、自分の意見と他者の意見の相違を俯瞰した上で、効果的に自分の意見や想いを伝えることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、学習内容を積極的に吸収し、自分自身を成長させようとしている。

定 期 考 査 実 施 予 定	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
	○	○	○	○	○
評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。 ○ 定期考査 … Ⅰ・Ⅱ の観点 ○ ノート内容 … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業成果物（レポート、感想文、提出物等） … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業態度（真面目な態度、積極的な取組） … Ⅲ の観点				

国 語

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
論理国語	2単位	普通科（Ⅰ・Ⅱ型）	3年

教 科 書	論理国語（大修館書店）	副 教 材	カラー版 新国語便覧（第一学習社）
-------	-------------	-------	-------------------

科目の目標	(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	評論Ⅰ 「贈り物」としてのノブレス・オブリージュ 評論Ⅱ 「である」ことと「する」こと 評論Ⅲ 「日常に走る亀裂」 評論Ⅳ 「無常ということ」	話題と主張を適切に捉え、自分の考えを論理的に表現する力を養う。
2 学 期	評論Ⅴ 「日本文化の三つの時間」 評論Ⅵ 「リスク社会としての現代」 評論Ⅶ 「ポスト真実時代のジャーナリズムの役割」 評論Ⅷ 「消費されるスポーツ」 評論Ⅸ 「人を指す言葉」	論の展開と主張を適切に捉え、指定された字数で自分の考えをまとめる力を養う。
3 学 期	評論Ⅹ 「猫は後悔するか」	筆者の論理を適切に捉え、自分の考えを指定された字数でまとめる力を養う。
備 考 （ 学 習 の ポ イ ン ト ）	1 復習を必ず行うこと。板書を見ながら今日の授業を頭の中で再現すること。 2 国語の学習において、要約と説明は鍵である。文章の要点を説明し、また本文を要約して、学習内容の定着を図ること。 3 知らないことは考えられない。積極的に読書し、自分の知見を広げること。	

評価 規 準	知識・技能	実社会に出て必要となる国語の語彙や文法的な知識などを身に付け、情報を論理的に分析できる。
	思考・判断・表現	論理的、批判的に考え、より論理的な表現を検討することができる。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを論理的に展開し、明快に主張を述べることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、学習内容を積極的に吸収し、自分自身を成長させようとしている。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。 ○ 定期考査 … Ⅰ・Ⅱ の観点 ○ ノート内容 … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業成果物（レポート、感想文、提出物等） … Ⅱ・Ⅲ の観点 ○ 授業態度（真面目な態度、積極的な取組） … Ⅲ の観点				
---------	---	--	--	--	--

公 民

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
政治・経済	3 単位	普通科（Ⅱ型）	3 年

教科書	高等学校 政治・経済（第一学習社）	副教材	
-----	-------------------	-----	--

科目の目標	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治・経済 第1節 日本国憲法と現代政治のあり方 第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方 第3節 市場経済の機能と限界 第2章 現代日本の諸課題の探究	・民主政治の本質を把握し、政治と私たちとの関わりについて理解する。
2 学期	第1章 現代日本の政治・経済 第4節 持続可能な財政および租税のあり方 第5節 金融を通じた経済活動の活性化 第6節 経済活動と福祉の向上 第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 第1節 国際法の果たす役割 第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質 第4節 国際経済において求められる日本の役割 第2章 国際社会の諸課題の探究	・現代経済の特質について理解する。 ・国際社会において日本がこれから果たすべき役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・国際経済に関する基本的な概念や理論を理解する。
3 学期	演習	・現代社会の諸課題について、望ましい解決のあり方を考える。
備 考 (学習のポイント)	1 教科書をよく読み、図版（グラフ・表・写真等）も読み取る力を身に付けよう。 2 新聞、ニュース等で、政治・経済の動向に関心を持とう。 3 毎時、政治・経済ノートで、授業で学習した用語の理解を確認するなど復習をしよう。 4 積極的に問題演習にも取り組み、自主的に受験対策を進めていこう。	

評価 規 準	知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。				
	思考・判断・表現	現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断している。				
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。				
定期考査 実 施 予 定	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末	
	○	○	○	○	○	
評 価 方 法	定期考査、ファイル提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ 授業態度（意欲的な態度、積極的な発表） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題） ○ 定期考査（適切で計画的な学習の成果）					

地理歴史

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
日本史探究	2単位	普通科（Ⅱ型）	3年

教 科 書	詳説日本史（山川出版社）	副 教 材	新詳日本史（浜島書店）
-------	--------------	-------	-------------

科目の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第3部 近世 第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺 第4部 近代・現代 第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	・近世の政治・社会の展開を多面的・多角的に考察し、幕藩体制の確立や変化、近世の社会・文化の特色を理解する。
2 学 期	第13章 近代国家の展開 第14章 近代の産業と生活 第15章 恐慌と第二次世界大戦 第16章 占領下の日本 第17章 高度成長の時代	・近現代の政治・社会の展開を多面的・多角的に考察し、近代国家の成立や諸外国との関係やその変容について理解する。
3 学 期	第18章 激動する世界と日本	・2年次からの学習を総括し、現代日本の課題形成に関する歴史について多面的・多角的に考察・理解して表現する。
備 考 （ 学 習 の ボ イ ン ト ）	1 教科書をしっかり読み、ページ横の（注）の文章にも注意しよう。 2 教科書に掲載されている図版や史料などにも目を通しておこう。 3 語句や人名を単に覚えるのではなく、歴史の流れのなかで理解しよう。 4 現代の日本の諸課題と結びつけて考えよう。	

評 価 規 準	知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を身に付けている。				
	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探求しようとしたり、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めている。				
定 期 考 査 実 施 予 定		1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
		○	○	○	○	○
評 価 方 法		定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○授業態度（まじめな態度、発表内容） ○課題提出（長期休業中の課題など） ○定期考査（計画的な学習計画と成果）				

数 学

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
数学Ⅱ	2単位	普通科（Ⅱ型）	3年

教 科 書	新編 数学Ⅱ（数研出版）	副 教 材	基本と演習テーマ 数学Ⅱ（数研出版）
-------	--------------	-------	--------------------

科目の目標	三角関数、指数関数と対数関数および微分法、積分法について理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第4章 三角関数 三角関数 三角関数のグラフ 加法定理	・角と三角比の値の関係を関数として捉えます。
2 学 期	第5章 指数関数と対数関数 指数関数 対数関数 第6章 微分法と積分法 微分係数と導関数 関数の値の変化	・指数の範囲を広げたり、新しい関数を学習したりします。 ・関数の値の変化の様子を調べ、グラフをかいて、方程式に応用します。
3 学 期	第6章 微分法と積分法 微分法 積分法	・図形の面積や体積を求める。

備 考 (学習のポイント)	1 第4章は、数学Ⅰで学習した三角比の内容を拡張し、三角関数として扱います。練習を積んで、新しい角の定義に慣れましょう。 2 第5章は、中学校で学習した指数法則を発展させた内容になります。基本内容をしっかり復習しておきましょう 3 第6章（微分法）は、微分係数の意味を理解し、増減表やグラフを正確に作成できるようにしましょう。 4 第6章（積分法）は、微分法の反対の作業となります。微分の内容をしっかりと理解しておくことがポイントとなります。
-------------------------	---

評 価 規 準	知識・技能	基本的な考え方、原理、法則、用語、記号の意味の理解している。
	思考・判断・表現	式、図、表、グラフ等を用いて、様々な課題を数学的に捉え、数学的論拠に基づいて事象を的確に判断・表現し、考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、問題解決において積極的に数学を活用している。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ 小テスト（単元毎の小テストなど） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	--

理 科

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
理科探究	2単位	普通科（Ⅱ型）	3年

教科書	野村高校 理科探究（野村高校理科）	副教材	プリント
-----	-------------------	-----	------

科目の目標	生物や生命現象、生活の中に隠れた物質の性質や変化などについて理解し、生物や化学分野における科学的思考力を高める。また、観察・実験を行い、実験技能を習得してその結果を考察する能力を育む。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	生物の特徴（生物の多様性と共通性、生物とエネルギー） 遺伝子とその働き （遺伝情報とDNA、遺伝情報とタンパク質の合成） 科学と人間生活（物質の成分と構成元素） 物質の構成（原子の構造と元素の周期表）	- 生物の特徴や遺伝子の働きを理解する。 - 元素の確認方法や、原子の構造・性質について理解する。
2 学 期	ヒトのからだの調節（体内環境、体内環境の維持のしくみ、免疫） 物質の構成（化学結合） 物質の変化（物質と化学反応式、酸と塩基、酸化還元反応）	- 体内環境と恒常性について学ぶ。 酸、塩基とその量的関係を理解する。 - 酸化・還元反応と量的関係を理解する。
3 学 期	生物の多様性と生態系 （植生と遷移、バイオーム、生態系のバランスと保全）	気候とバイオームについて学ぶ。
備 考 (学習のポイント)	1 生物の特徴を知り、生物のからだや取り巻く環境について理解しよう。 2 化学物質や化学反応を知り、身の回りの現象を化学的思考で説明できるようにしよう。 3 簡単な実験を通して、様々な現象や物質の性質を理解しよう。 4 写真や表、図などから、身近な自然について考え、これからの自分たちに何ができるか考えてみよう。	

評価の観点	知識・技能	・内容を理解し、正しい知識で生命現象や化学的現象を説明することができるか。 ・実験や観察を、正しい手順で素早く行い、まとめているか。				
	思考・判断・表現	・科学的知識のもとに、現象理解を自分の言葉で表現し、発言しているか。				
	主体的に学習に取り組む態度	・科学に興味を持ち、学んだことを積極的に日常生活に結び付けようとしているか。				
定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
実施予定		○		○	○	
評価方法	定期考査、レポート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ プリント提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ レポートや課題の提出（実験内容の確認）					

保健体育

科目名	単位数	学科	学年
体育	3単位	普通科（Ⅱ型）	3年

教科書	新高等保健体育（大修館）	副教材	最新スポーツルール 2024（大修館）
-----	--------------	-----	---------------------

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	体づくり運動、集団行動、新体力テスト、陸上競技 球技Ⅰ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（ソフトボール・バレーボール・ソフトテニス） 体育理論（生涯スポーツの見方・考え方）（ライフスタイルとスポーツの楽しみ方）	・自己の体力や生活に応じて取り組み、実生活に役立てる。 ・ペースの変化に対応するなどして走る。
2 学 期	体づくり運動 球技Ⅱ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（サッカー・バスケットボール・バドミントン） 体育理論（スポーツ推進のための施策と課題）（スポーツで「未来」を創る）	・作戦や状況に応じた技能や仲間と連携してゲームが展開できるようにする。
3 学 期	体づくり運動 球技Ⅲ〔個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法〕 【男子】【女子】（バスケットボール・バレーボール・卓球）	・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにする。
備 考 （ 学 習 の ポ イ ン ト ）	1 自らの特性を生かしたり、伸ばしたりする上で、能力等に応じて運動を選び、その運動を得意にしていくなどして生涯スポーツの基礎づくりをしよう。 2 集団としての行動を秩序正しく、能率的に行えるようにしよう。 3 互いに協力して自己責任を果たそう。	

評価 規 準	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための倫理について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。				
	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。				
定期 考 査 実 施 予 定	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末	
評価 方 法	授業態度、運動の技能、体育理論の理解度等を総合的に評価する。 ○ 出席状況、授業態度・意欲（授業の参加状況、意欲的でまじめな態度） ○ 運動の技能（各種運動の技能の習熟度、審判法の理解度） ○ 体育理論の理解度（理解度の確認テスト）					

芸 術

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
美術Ⅱ	3単位	農業科（畜産科）	3年

教 科 書	美術2（光村図書）	副 教 材	
-------	-----------	-------	--

科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	工芸 デザイン 日常生活のデザイン 箸置きデザインの制作 アイデアスケッチ、原型制作 シリコンゴムの型どりと鋳合金の鋳込み 仕上げ、刻印打刻 鑑賞 作品の相互鑑賞	・使う、遊ぶデザインの理解 ・道具の正しい扱い方を理解する。
2 学 期	工芸 指輪の制作、銀の板を切る、刻印を打つ、 バーナーでロウ付け、やすりで整形、 サンドペーパーで磨く。	・卒業の記念になるものを自分で作る。 ・身に付けるデザインを理解する。
3 学 期	デザイン 指輪の箱制作 パッケージデザイン 名前を入れたデザインの箔押し	・3年間の総決算としての制作を意識する。
備 考 (学習のポイント)	1 様々な表現方法を学び、技術を身に付けよう。 2 自分の思いを表現しよう。 3 作品の良さを発見し言葉にして伝えよう。	

評 価 規 準	知識・技能	授業の内容を習得し、芸術文化への理解を深めている。鑑賞を通して感性を高め表現することができる。
	思考・判断・表現	作品の主題を理解し、アイデアやイメージを膨らませ、表現の方法を工夫することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	美術に関心を持ち、積極的に授業に取り組み、意欲的に表現し鑑賞することができる。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定					

評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下のとおり。 作品、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○授業プリントの提出（授業内容の理解の確認）… Ⅰ・Ⅱ の観点 ○授業態度（真面目な態度、積極的な発表など）… Ⅲ の観点 ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）… Ⅱ・Ⅲ の観点 ○鑑賞プリントの提出… Ⅱ・Ⅲ の観点
---------	---

芸 術

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
クラフトデザイン	2単位	普通科（Ⅱ型）	3年

教 科 書	製本の仕方（野村高校）	副 教 材	
-------	-------------	-------	--

科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	工芸 様々な製本の仕方 和綴じでテキスト制作 紙の目について 折丁に目引き、綴じ機を使った綴じ 本体の制作 デザイン 見返し用紙のデザイン 工芸 表紙の制作と合体 鑑賞 作品の相互鑑賞	・問題を解決するデザインとしての本の仕組みを理解する。 ・紙の種類、道具、材料の使い方を学ぶ。 ・物ができるまでのすべての工程を最初から最後まで一人で行い、完成させる達成感を味わう。
2 学 期	工芸 帳簿製本 書くための製本とは 制作内容は1学期と同様で、途中が違うだけ 鑑賞 作品の相互鑑賞	・上記に同じ。
3 学 期	デザイン 表紙への箔入れ デザイン 鑑賞 作品の相互鑑賞	・卒業制作としての制作であること、使い方などについて考える。
学習の ポイント	1 様々な製本方法を学び、技術を身に付けよう。 2 自分の思いを表現しよう。 3 作品の良さを発見し言葉にして伝えよう。	

評 価 規 準	知識・技能	授業の内容を習得し、芸術文化への理解を深めている。鑑賞を通して感性を高め表現することができる。
	思考・判断・表現	作品の主題を理解し、アイデアやイメージを膨らませ、表現の方法を工夫することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	美術に関心を持ち、積極的に授業に取り組み、意欲的に表現し鑑賞することができる。

定 期 考 査 実 施 予 定	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
評 価 方 法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下のとおり。 作品、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○授業プリントの提出（授業内容の理解の確認）… Ⅰ・Ⅱ の観点 ○授業態度（真面目な態度、積極的な発表など）… Ⅲ の観点 ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）… Ⅱ・Ⅲ の観点 ○鑑賞プリントの提出… Ⅱ・Ⅲ の観点				

芸 術

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
音楽Ⅱ	2単位	普通科（Ⅱ型）	3年

教 科 書	高校生の音楽2（教育芸術社）	副 教 材	
-------	----------------	-------	--

科目の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	歌唱表現 日本歌曲 器楽表現 リコーダー 創作表現 動機を用いた旋律づくり 鑑 賞 ミュージカル	・山田耕筰の作風を理解する。 ・いのちの名前を演奏する。 ・創意工夫のある旋律を創作する。 ・ミュージカルの魅力を理解し、言葉で他者に伝える。
2 学 期	器楽表現 ギター 器楽表現 ヴァイオリン 鑑 賞 古の音楽	・ギターだけで合奏をする。 ・ヴァイオリンの応用的な奏法を身に付ける。 ・段物について理解する。
3 学 期	鑑 賞 アメリカ育ちのクラシック音楽	・アメリカで生まれた様々なジャンルの音楽を鑑賞し、その歴史や音楽の特徴を理解する。
備 考 (学習のポイント)	1 表現に必要な技能を身に付けるために、根気強く練習に取り組もう。 2 他者と積極的に意見を共有したりアンサンブルしたりしよう。 3 日常生活においても、様々な音楽と親しもう。	

評 価 規 準	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。				
	思考・判断・表現	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができる。				
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付ける。				
定 期 考 査 実 施 予 定		1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
評 価 方 法		実技テストや小テスト、ワークシートの記述内容、授業態度などを総合的に評価する。 ○実技テスト ○小テスト ○ワークシートの記述内容 ○授業態度（積極性、練習への取り組み等）				

外国語（英語）

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
英語コミュニケーションⅡ	2単位	普通科（Ⅱ型）	3年

教科書	LANDMARK Fit English Communication Ⅱ (啓林館)	副教材	Word Navi 英単語・熟語 3000
-----	---	-----	--------------------------

科目の目標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	Lesson 6 Edo: A Sustainable Society Lesson 7 Biodiesel Adventure: From Global to Glocal	・使役動詞、助動詞、強調構文、部分否定を使った英文
2 学 期	Lesson 8 Our Future with AI Optional Lesson 1 Language Change over Time	・仮定法、関係代名詞を使った文法 ・言語・歴史について読み取る。
3 学 期	Optional Lesson 2 Letters from a Battlefield	・戦争・平和・家族愛について読み取る。
備 考 (学 習 の ポ イ ン ト)	1 教科書の内容が理解できる。 2 各レッスンで示された表現を使い、身の回りのことを英語で表現できる。 3 辞書やノートを繰り返し活用して、英語で考えることができる。	

評 価 の 観 点	知識・技能	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。
	思考・判断・表現	簡単な英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを相手に伝えていく。背景にある文化などを理解している。
	主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○
評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表、ペアワーク） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題） ○ 小テスト（単語・その他）				

家 庭

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
保育基礎	2単位	普通科	3年

教科書	保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ（教育図書）	副教材	
-----	-------------------------------	-----	--

科目の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指す。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	子どもにかかわる職業 1章 子どもの保育 5章 子どもの文化 保育技術検定	・「保育」の意義、子供が育つ環境、保育施設の特徴について学ぶ。 ・子供を取り巻く遊びや文化について理解を深める。 ・言語表現、音楽・リズム表現、造形表現、家庭看護表現について、実習を通して学ぶ。
2 学 期	2章 子どもの発達 3章 子どもの生活 （実習）調理実習 被服製作実習 5章 子どもの文化 （実習）児童文化財の製作	・子どもの発育・発達に応じた適切な保育の重要性について学ぶ。 ・子どもの健康を守り、健やかな成長・発達を支えるための知識と技術を学ぶ。 ・幼児向けおもちゃの製作を行い、発表・相互評価を行う。
3 学 期	4章 子どもの福祉	・児童福祉に関する基本的な法規の目的と概要を学ぶ。
備 考 (学習のポイント)	1 子どもの安全を守るために、正しい知識を習得しよう。 2 思春期の健康が健全な母性・父性の育成につながることを理解し、実践しよう。 3 子どもの理解を深めるために、乳幼児とのふれあいを大切にしよう。 4 子どもたちと楽しく遊んで、遊びの意義を理解しよう。	

評価 規 準	知識・技能	子どもの成長・発達を理解し、子どもの生活を支えるための知識・技術を身に付けている。
	思考・判断・表現	子どもを産み育てることや、家庭や地域の役割についての課題を見出し、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	子どもの成長・発達に興味関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身に付けている。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定		○		○	○

評 価 方 法	定期考査、提出物（課題、プリント）、授業の取り組みの様子などを総合的に評価する。 ○ プリント提出（整理状況の確認） ○ 授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○ 小テスト（単元ごとの確認テストなど） ○ 課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）
---------	---

商 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
ビジネス・コミュニケーション	3単位	普通科（Ⅱ型）	3年

教 科 書	ビジネス・コミュニケーション 新訂版（東京法令出版）	副 教 材	ビジネス・コミュニケーション新訂版 ワークブック（東京法令出版）
-------	-------------------------------	-------	-------------------------------------

科目の目標	ビジネスに必要なコミュニケーションに関する知識と技術を習得させ、グローバル化する経済社会の一員として、コミュニケーションを主体的かつ協働的に行う能力と態度を育てる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1章 ビジネスとコミュニケーション 第2章 ビジネスマナー 第3章 ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション 全商ビジネス計算実務検定試験（6月） 全商ビジネス文書実務検定試験（7月）希望者・希望級	・ビジネスにおけるコミュニケーションの概要について学び、倫理観や人的ネットワーク、協働の重要性を理解する。 ・ビジネスマナーの基本的な知識を理解する。
2 学 期	第3章 ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション 第4章 ビジネスと外国語 全商情報処理検定試験（9月・11月）希望者・希望級 全商ビジネス計算実務検定試験（11月）希望者・希望級 全商ビジネス文書実務検定試験（11月）希望者・希望級	・企業の海外進出の現状と課題について把握し、ビジネスにおける外国語の重要性や文化と商習慣について理解する。
3 学 期	第4章 ビジネスと外国語 第4節 ビジネスにおけるプレゼンテーション 全商情報処理検定試験（1月）希望者・希望級	・電子メールや外国人に対するプレゼンテーションについて基本的な知識を理解する。 ・資格取得に向けて主体的に取り組む。
備 考 （ 予 習 の ポ イ ン ト ）	1 ビジネスマナーは普段の生活に密接に関係しています。他人事ではなく自分のこととして捉え、実践できるように学習にしていきましょう。 2 新しい単元の前には教科書をきちんと読み、予習をしておきましょう。 3 日頃からニュースに関心を持ち、経済社会の変化に対応する力を養おう。	

評 価 規 準	知識・技能	ビジネスにおけるコミュニケーションの基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、コミュニケーションの意義や役割を理解するとともに、その技術を適切に活用している。				
	思考・判断・表現	基礎的・基本的な知識と技術を活用して、ビジネスにおけるコミュニケーションの活動における諸問題を、適切に判断し解決に向けて考えることができる。				
	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスにおけるコミュニケーションについて関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組んでいる。				
定 期 考 査 実 施 予 定		1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
			○		○	○
評 価 方 法		定期考査、課題提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ 授業態度 ○ 課題提出 ○ 重要用語確認テスト				

商 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
マーケティング	2 単位	普通科（Ⅱ型）	3 年

教 科 書	マーケティング（実教出版）	副 教 材	マーケティング 準拠問題集（実教出版）
-------	---------------	-------	---------------------

科目の目標	マーケティングに関する知識と技術を習得させ、マーケティングの意義や役割、面白さと奥深さについて理解させるとともに、マーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を育てる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	1 章 マーケティングの概要 2 章 消費者行動の理解 3 章 市場調査 4 章 STP 5 章 製品政策 6 章 価格政策 7 章 チャネル政策	・マーケティングの概要、消費者行動の特徴、市場調査の意味、STP、製品政策、価格政策、チャネル政策を理解する。
2 学期	7 章 チャネル政策 8 章 プロモーション政策 9 章 マーケティングのひろがり 【全商商業経済検定試験問題演習】	・チャネル政策、プロモーション政策を理解する ・マーケティングのひろがりについて理解する。
3 学期	9 章 マーケティングのひろがり 【全商商業経済検定試験問題演習】 全商協会商業経済検定マーケティング2級（2月）	・マーケティングについての知識や技能の定着を図る。 ・資格取得に向けて主体的に取り組む。
備 考 (学習のポイント)	1 商品はなぜ売れるのか、どうすれば売れるのか、消費者は商品を購入する時にどんな考えで行動しているかなど、消費者の立場と販売する立場から考えよう。 2 教科書だけでなく、身近な場所に教材はたくさんあります。日頃からマーケティング活動に注目してみよう。	

評 価 規 準	知識・技術	マーケティングに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、意義や役割を理解するとともに、合理的にその技術を適切に活用している。			
	思考・判断・表現	マーケティング活動との関連を的確に把握し、自ら考察を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用できている。			
	主体的に学習に取り組む態度	マーケティングについて関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組んでいる。			

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定		○		○	○

評 価 方 法	定期考查、課題提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ 授業態度 ○ 課題提出（日々の課題及び長期休業中の課題） ○ 検定試験（マーケティング2級）
---------	---

商 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
ビジネス法規	2 単位	普通科（Ⅱ型）	3 年

教 科 書	ビジネス法規（実教出版）	副 教 材	ビジネス法規 準拠問題集（実教出版）
-------	--------------	-------	--------------------

科目の目標	ビジネスに必要な法規に関する基礎的な知識を習得させ、経済社会における法の意義や役割について理解させるとともに、適切に判断して行動する能力と態度を育てる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	第1章 法の概念 第2章 権利・義務と財産権 第3章 財産権の変動	・法を学ぶための基本的な事柄を理解する。 ・権利・義務の意義や関係を学習し、財産権とその変動に関する基礎的な知識を理解する。
2 学期	第4章 企業活動と法規 第5章 企業責任と法規 第6章 紛争の解決と予防 第7章 税と法規	・企業活動の特徴や機関について基礎的な知識を理解する。 ・法令遵守、説明責任や保護の重要性を理解する。 ・紛争の解決と予防、税に関する基本的な知識を理解する。
3 学期	第7章 税と法規 全商商業経済検定試験ビジネス法規2級（2月）	・税に関する基本的な知識を理解する。 ・資格取得に向けて主体的に取り組む。
備 考 (学習のポイント)	1 法は生活に密接に関係しています。事例を他人事ではなく自分のこととして捉え、実践に生かせる学習にしていきましょう。 2 新しい単元の前には教科書をきちんと読み、予習をしておきましょう。 3 ニュースに日頃から関心を持ち、法律的視点を養おう。	

評価規準	知識・技術	経済社会における法の基礎的・基本的な知識を身に付け、法の意義や役割について理解するとともに、身近なニュースを通して、何の法律によってどのように扱われるのかを条文とあわせて具体的に捉えることができている。
	思考・判断・表現	法に関した基礎的・基本的な知識を活用して、適切に判断し、法律的観点に基づいて正しい解釈ができている。
	主体的に学習に取り組む態度	法について興味・関心を持ち、その知識や法律的な考え方の習得を目指して意欲的に取り組む姿勢が見られる。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、課題提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ 授業態度 ○ 課題提出 ○ 重要用語確認テスト ○ 発表（時事問題、教科書章末問題解説、事例説明などの準備・態度等）
---------	--

商 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
財務会計Ⅰ	5単位	普通科（Ⅱ型）	3年

教 科 書	財務会計Ⅰ（東京法令出版）	副 教 材	完全段階式標準検定簿記問題集会計（東京法令出版） 全商簿記実務検定模擬試験問題集 1級会計（実教出版）
-------	---------------	-------	--

科目の目標	財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させるとともに、会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第Ⅰ編 企業会計と財務会計の意義・役割 1 企業会計と財務会計 2 財務諸表の構成要素 3 会計法規と会計基準 4 財務諸表の様式・区分表示 第Ⅱ編 会計処理 1 資産の分類と評価 2 現金と預金 3 売上債権 4 有価証券 5 棚卸資産・その他の流動資産 6 有形固定資産 7 リース会計 8 無形固定資産・研究開発費と開発費 9 負債の意味・分類	・財務会計の目的や前提を学ぶとともに、株式会社をとりまく法規や制度の特徴を理解する。 ・勘定科目ごとに意味や分類、評価の基準や会計処理を理解する。
2 学 期	10 株式会社の設立・開業と株式の発行 11 当期純損益の計上と余剰金の配当・処分 12 純資産の意味・分類 13 収益・費用の認識と測定 14 税 15 外貨建取引 第Ⅲ編 財務諸表の作成 1 資産・負債・純資産に関する財務諸表 2 収益・費用に関する財務諸表 第Ⅳ編 財務諸表分析の基礎 1 財務諸表の意義 2 財務諸表分析の方法 発展的な内容 連結会計 1 連結財務諸表の作成	・企業会計に関する法規と基準を実務に適用し、それぞれの財務諸表の作成方法を理解し、作成技術を習得する。 ・財務諸表分析の意義と計算方法を理解する。 ・連結財務諸表の目的と作成する基礎的な技術を習得する。
3 学 期	全商簿記検定 1級会計受験	・資格取得に向けて主体的に取り組む。
備 考 (学習のポイント)	1 予習よりも復習に重点を置いて、理解できるまで同じ問題を何回も解こう。 2 財務諸表分析を通して、計数的に企業の状態の良否の判断ができるようになるろう。 3 法や制度について、意義や役割をきちんと理解しよう。	

評価 規 準	知識・技術	財務会計に関する理論的な知識と技術にとどまらず、実務と関連づけられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ実務に即した知識と技術が身に付いている。				
	思考・判断・表現	財務会計に関する理論、企業活動の流れなど科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題に対応する力および財務指標を組み合わせることで企業の実態を総合的に分析する力が身に付いている。				
	主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら財務会計について学ぶ態度および組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、適正な会計処理、財務諸表の作成と分析などによる会計情報の提供と効果的な活用に責任を持って取り組む態度が身に付いている。				
定期 考 査 実 施 予 定	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末	
	○	○	○	○	○	
評 価 方 法	定期考査、課題提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ 課題（問題集・プリント）の解答状況					

総 合

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
社会人基礎	1単位	普通科（Ⅱ型）	3年

教科書	「社会人基礎」テキスト (野村高校)	副教材	各種プリント（校内作成）
-----	-----------------------	-----	--------------

科目の目標	1 将来、社会人・職業人として、適切な社会生活・職業生活を送るために、必要な能力・態度の基礎基本について理解するとともに、実践できる能力や態度、望ましい勤労観、就労観を養う。 2 時代や環境が変化しても、人と人とが出会い、関わっていくときには基本的なマナーが常に求められていることを理解し、実践できる能力や態度を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 職業探究 2 社会人講話 3 入社試験の内容 4 全商検定問題 5 社会人として 6 仕事の基本心得	・自分を見つめ、適性や特徴を理解する。 ・検定問題によりビジネス文書の作成方法を理解する。
2 学 期	(実践面接) 6 仕事の基本心得 7 仕事の手順 8 命令と報告 9 電話の応対 10 社会人として 11 来客対応 12 租税教室 13 ライフプランニング講演会	・ビジネスマナーや一般常識について理解し、場面や状況に応じて正しく使い分ける判断力を身に付ける。
3 学 期	14 着こなし講座 15 まとめ	・社会人として求められる基本的な知識を身に付ける。
備 考 (学習のポイント)	1 社会人になるために必要な知識や技能とは何か考え、学習しましょう。 2 ビジネスにおける基本的なマナーや、基礎的なコミュニケーションの方法、必要な情報の入手と活用について学習し、生活に活かしましょう。 3 将来を見据えたライフプランを各自が意識しながら学習しましょう。 ※この科目は、考查を実施しません。	

評価 規 準	知識・技能	・進路選択の方法や、自己の適性の把握方法を理解している。 ・ビジネスマナーについて基本的な内容を理解している。				
	思考・判断・表現	・理解したビジネスマナーを状況や場面において適切に使い分けることができる。 ・将来を見据えたライフプランを考えることができる。				
	主体的に学習に取り組む態度	・進路選択や将来のライフプランなどについて、様々な情報をもとに主体的に考え、授業に積極的に取り組んでいる。				
定期 考 査 予 定		1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
評価 方 法		授業態度や小テスト課題の提出状況等を総合的に評価する。 ○ 授業態度 ○ 小テスト ○ レポート課題提出				